

#### ④太陽熱システム更新への支援

故障や耐用年数の経過により、屋根に乗ってはいるが使われていないシステムも増えているといわれています。こうしたデッドストックをなくし、着実に更新していくことも重要です。メーカーや業者などと協力して、回収システムを構築したり、更新時の回収費用を補助するなどの方策も考えられます。

### (3) 2010（平成22）年以降の施策

#### ①より大規模なシステムの導入推進

戸建住宅だけでなく、前期間で取り組んだ実証モデルなどをもとに、集合住宅や公共施設、事業所など、比較的規模の大きいシステムの導入が必要になると考えられます。

#### ②地域冷暖房システムへの太陽熱からの熱供給

市内に地域冷暖房システムのインフラ整備が進めば、将来的には太陽熱利用システムからの熱をネットワークに供給することも可能になります。熱需要のない工場や事業所、学校などの屋根も設置スペースとして考えることができます。また、太陽熱利用分をきちんとカウントできるようにすれば、電力と同じように、「グリーン熱」としてグリーン証書の対象とすることも可能と思われます。

←地域熱供給網に接続された大規模な太陽熱集熱器（オーストリア・グラーツ市）